



Think Globally! Challenge for your Career!

外国留学中間レポート



留学中のみんなから、中間レポートが届きました!



2020 SPRING 発行



甲南大学国際交流センター

外国留学中間レポート 2020 SPRING

目次

アメリカ	ピッツバーグ大学 文学部人間科学科 4年.....	2
	ウイバー州立大学 文学部社会科学科 4年.....	3
	ノースアラバマ大学 文学部歴史文化学科 5年.....	5
カナダ	ビクトリア大学 経済学部経済学科 4年.....	6
イギリス	リーズ大学 マネジメント創造学部特別留学コース 3年.....	7
オーストラリア	マードック大学 文学部英語英米文学科 3年.....	8

ピッツバーグ大学（アメリカ）
文学部人間科学科 4年
【交換留学】留学期間：2019年8月～2020年4月



留学生活は半分以上過ぎ、春学期が始まっています。春学期と言っても真冬なので、寒い日には雪が積もったり、最高気温が氷点下になる日もあります。しかし、天気予報の数字ほど体感は寒くなく、思ったよりも寒くなく雪もあまり沢山は降らないので過ごしやすいです。ここ数ヶ月はインフルエンザが流行しており、咳やくしゃみをする人が増え、学内にアルコール消毒が多数設置され始めました。日本以外でもこんなにインフルエンザが流行するのかと驚きました。同じ留學生の友人もインフルエンザにかかり、授業に出席できず大変遅れをとっていた（アメリカでは各クラス週に2、3回授業がある）ので、手洗いうがいや睡眠に気を付けて予防を心掛けています。

春学期が始まる前の約3週間の冬休みは大多数の人々がクリスマスのためか帰省しており、人々を見かけることや物音を聞くことも殆どなく、町がとても静かでした。個人的に

は、友人とニューヨークに5泊6日の旅行に行ったり、クリスマスには友人と夕食を作ったりしたことがとても思い出深いです。その他の日は卒論に向けて先行研究を読んだり大学院入試の勉強をしていました。

冬休みが明けてから数週間はとても忙しかったです。最初の2週間は履修登録期間中なのにも関わらず、初日から課題が出たり、予習・復習そして履修科目の調整に明け暮れていました。履修登録は秋学期のうちに済ませたものの、交換留學生は履修登録の始めが正規の学生より一週間遅いため、なかなか取りたいクラスが取れず、春学期が始まってからクラスを決めるまでは苦労しました。秋学期



はとても充実していた一方、春学期は難しいクラスを取っていたこともあり、いい成績が取れないかもしれないと不安でした。特に、取りたいクラスが取れなかったため、一部のクラスには意義を感じられずにいた頃もありました。しかし、その他のクラスでは名前は日本で既に取ったことのあるクラスと同じでも内容が異なるまたはより深く幅広い内容なのでとても勉強になります。最近各



クラスの一つ目のテストがありました。まだ予習復習の仕方が定まっていませんでしたができる限りを尽くし、秋学期程とはいきませんが、春学期もなんとか目標に近い点数をとれました。この一つ目のテストの経験を活かし、より効率良く復習できるよう、毎日自分で授業の内容をノートにまとめて復習しています。テストに出そうなポイントもある程度把握できたので、次のテストはより高得点が取れるよう、引き続き精進していきたいと思います。また、残り少ない留学生生活を有意義に過ごせるよう、悔いのないよう行動していきたいと思います。

ウイバー州立大学（アメリカ）
文学部社会学科 4年
【交換留学】留学期間：2019年8月～2020年4月



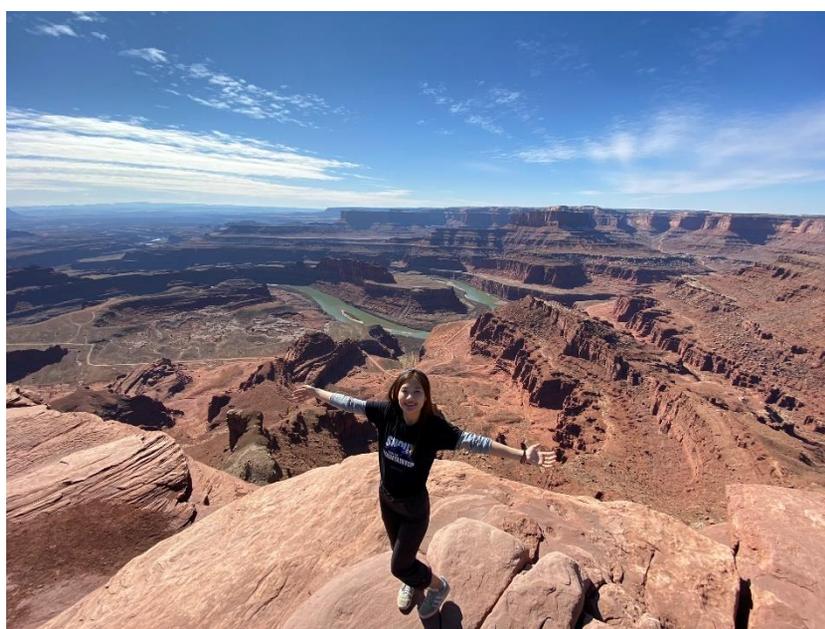
ウイバー州立大学での留学生活も残すところ約1ヶ月半となり、無事に何事もなくここまで本当に充実した日々を過ごすことができていることに安心するとともに、あっという間に立ってしまった時間に少し寂しさを感じている毎日です。寮生活にもすっかり慣れ、相変わらず多くの課題、予習、復習はあるものの秋学期より少し余裕が持てている気がします。

春学期は秋学期に比べて自分が積極的にクラスに参加できる、クラスメイトと交流ができる機会がある授業を受講しています。例えば Interpersonal/small group communication のクラスでは、授業内だけではなく授業外の

グループ活動の時間も多く取る必要があったり、成績もグループで評価されたりと少し普通とは違う積極性が求められる授業です。ですが、良いチームワーク・リーダー・コミュニケーションとは何か、を学びながら並行してボランティア活動をグループで行ない、グループでそれぞれの個性や意見を出し合っってプレゼンテーションを行うことはとても充実感があります。他の受講生とのコミュニケーションが必須なので英語の向上にもつながっていると実感しています。また、せっかくユタ州にいるので何かここでしか受けられない授業が取りたいと思い、スキーのクラスを受講しました。今まで一度もスキーをしたことはなく始めこそ大変でしたが、週に一度のスキーは素晴らしい思い出になりました。リフトに乗っている短い間にインストラクターの方にスキー場の豆知識を聞いたり、一緒に受講している方にユタの話を聞いたり、と回を重ねていくごとにスキーが上達するだけでなくお互いをより知ることができて本当に楽しかったです。

Winter break や Spring break には長期の休みを利用してアメリカの様々な州へ一人旅をしたり、ルームメイトの故郷へお邪魔したり、国立公園・州立公園を巡るロードトリップをしたり、とアメリカ中を満喫できました。自分の生まれ故郷であるテキサス州のマッカレンという都市に行く、という長年の夢も叶えることができました。

私は留学生活を通して何事にもチャレンジすることと、最後まで諦めずに全力を尽くすことは自分を成長させる上で大切なことであると再認識しました。ありがたいことにたくさんの良い出会いがあり最高の留学ができています。何よりユタ州のオグデンはとても住みやすいです。人が優しくて何だか温かさを感じるこの地域に私は本当に虜になってしまっています。残りの毎日を大切に、最高の思い出を最後まで作り続けたいです。





ノースアラバマ大学（アメリカ）

文学部歴史文化学科 5年

【認定校留学（JSAFプログラム SAP）】留学期間：2019年8月～2020年5月

去年の8月から始まった留学が後二、三ヶ月で終了します。留学のレポートとして留學生活で感じた良い点と悪い点を記します。まずはじめは良い点からです。去年の8月から12月までは語学学校で英語を学びました。語学学校のことを振り返ると、英語を多様な機会に触れることが多かった四ヶ月だと感じます。スピーキング、ライティング、リーディングなどの授業が平日の朝から夕方まで毎日ありました。特に11月頃は語学学校のLevel5のクラスだったのでテスト勉強と提出物がたくさんあり、あっという間に過ぎ去った記憶があります。授業中はサウジアラビアとコンゴから来た学生が頻繁に発言していたので授業で扱う内容がつまらなくても興味深くなっていった授業だと感じました。たまに私が発言しようと手を挙げると、私の意見を取り上げてもらい、回答が正しいかどうかなぜ間違っているかを先生やクラスメイトから教えてくれたので勉強になりました。

今年の一月から学部授業が始まりました。学部授業が始まってからは予習、復習のために英語を読む時間を土日関係なく毎日5時間程度つくっています。私の履修している4つのうち3つのクラスは私だけアジア人です。ですので、授業に行くと毎回刺激的です。授業の内容でわからないことがあれば授業後に先生に質問するか、先生に話す時間を作ってもらうためにメールをしたりしました。幸運にも、私が履修した地理の先生方々はとてもフレンドリーで授業の内容について個別で2時間ほど教えていただいたり、授業以外の興味深い話をしていただいたり、他の地域から来た方のプレゼンテーションを聞く機会を与えていただきました。加えて、印象的なことといえば学部授業の教科書です。すごく値段が高いです。私は今、一冊一万円以上する教科書を3冊持っています。ですが、先生の教科書を選ぶセンスにもよると思いますが大体の教科書の内容は充実しており、日本の大学の教科書より読んでいて楽しいです。

現地で半年ほど学生生活を送ると上記のような良い面だけでなく、散髪が雑だったり学食に飽きてきたり親しい現地の友人がいても言語が違うために、私が言いたい事の理解はしてもらえませんが、細かい話を正確に面白く伝える事が気軽にできない場面に遭遇します。言語が違うためにすごく疲労がたまったり、生まれた場所が違うために歩いているだけで知らない現地の学生から英語で悪口を言われたりなどの悪い面や他国の人々との考え方の違いが見えるようになりました。ですが、留学をするためには両親からの高額な費用と長い準備期間と様々な方々からの協力が必要でした。全てのこのような経験は限られた人にしか得られないので、特別な時間を過ごしていると思っ



ビクトリア大学（カナダ）
経済学部経済学科 4年
【交換留学】留学期間：2019年8月～2020年4月



先日からサマータイムが始まり、ビクトリアの気候も少しずつ春に近づいてきました。昨年の8月に初めてカナダという地に足を踏み入れてから、夏と秋が過ぎ、そして今ようやく長かった冬を終えようとしていることを肌で感じます。こちらで迎えた初めての冬は、ビクトリアが温暖な気候の地であると言え、私にとってはとても寒く、そして留学生活で一番大変だった季節でした。

12月の末に期末試験を終え、晴れて待ちに待っていた冬休みを迎えました。多くのことを経験した初めの1学期間でしたが、共に甲南大学から留学に来ていた仲間、別の国に留学をしている友人、そして現地でできた多くの友達に助

けられながら、とても有意義な時間を過ごすことができました。最初の1学期感を終えた感想は、全力を出しきり、とても満足のいくものでした。

1月の上旬からは、新学期が始まりました。多くの時間を共に過ごし、助けあった仲間や友人の帰国、ルームメイトの入れ替えなど、身の回りで多くの変化が起こりました。新しい授業が始まり、英語、経済を2科目、そしてジェンダースタディーズの合計4科目を履修することになりました。それだけでも自分には精一杯でしたが、予想していなかった出来事が起こり、新学期初日からとても大変な日々を過ごしました。しかし、そこで初めて、大切な友達や家族、そして留学を応援してくださっている方々に自ら助けを求め、励ましや慰めの言葉をもらいました。1人で初めての国で、第二言語での日常生活、学校生活を送るということは時に自分をあまりにも無力な状態にしてしまうことがあります。海外に住んでいるために自分ではどうすることもできない辛い出来事が起こったり、その辛さを軽減してくれる大切な人がすぐ側には見つからなかったり、自分では乗り越えられないかもしれないと感じるような壁に直面することがあります。私は今年の1月にそういった経験をし、正直本当に留学をやめてしまおうかと考えました。あの頃はその辛さが自分の成長に繋がるとはどうしても考えられませんでした。今では辛い、大変な時期を自分の力と周りの人々の支えで乗り越えることができたことを誇りに思っています。この出来事をきっかけに、こちらでできた友達とは、さらにとっても親密な信頼関係を築くことができました。“Everything will be okay. You are not alone. I’m always be here for you.”これは私の親友がかけてくれた言葉です。国籍や肌の色は違っても、同じ人間同士がこうやって助け合うことができることこそが、これからの世界のカタチなのかなと感じました。留学生活はあと残り2ヶ月を切りましたが、こちらでできた親友らと大切な時間を過ごし、引き続きこの場で勉強をできていることに感謝して生活していきます。



リーズ大学（イギリス）
マネジメント創造学部特別留学コース 3年
【交換留学】留学期間：2019年9月～2020年6月



イギリスにきて思ったこと。

必ずしも全員がそうだとか正しいとかではないのですが、イギリス人に限らず私の周囲の人達は自分の孤独感や不安、悲しみや寂しさを周りに伝えることを厭わない人が多いと感じました。昔何処かで「イギリスは天気も人も鬱っぽい」という言葉を聞いたことがあります。実際のところは負の感情を一人で抱えて苦しむのではなく、辛いことや悲しいことを周りにシェアすることでお互いを助け合っているのかな、と思いました。私は学生で、フラットをシェアしていて、優しく素敵なフラットメイトたちに恵まれたからかもしれませんが、よくみんなで自分たちの気持ちを打ち

ち明け合っていました。悲しいとき、腹が立つとき、友達がそばにいてくれて、いっしょに悲しんだり怒ったりしてくれると自分は一人じゃないんだと感ずることができる。他人に打ち明けることすら嫌なときは、誰かが隣にいるだけでも、静寂でも、気持ちを楽にすることができるのです。

私のフラットメイト達は鬱になりやすかったり、急にすべてが不安になって泣いてしまったり、人とかがかわるのが苦手な自分のスペースを確保しないとしんどくなったり、いろんなタイプの人達がいきました。何となくそういったことにマイナスなイメージがある日本では、そういった人たちは避けられてしまったり、又はそういった面を出さないようにしている人達が多い気がするのので吃驚しました。私はとても傷つきやすく悲しい気持ちや不安な気持ちが自分を占めることが多いのですが、ある時先生が感情的になってしまった時の友達の「あの人は子供っぽい先生ならもっとちゃんとしなきゃいけないでしょう」という言葉に悲しくなり、自分もまた否定されてしまったような気持ちになってしまったことがあります。自分の弱さを他人に見せるのは悪いことなのか、脆くあるのは「甘い」からなのか、傷つきやすいことは誰かにとって面倒なことなのか、ここにきて色々考えました。

英語さえできたら世界で活躍できるとか、世界中に友達ができるとか、確かにそういったチャンスは増えるかもしれませんが、大事なことは「英語が話せる」ということではなく、そこからどういった人間になるか、ということだと思いました。教養ももちろん、ウィットもそう、多文化を受け入れる能力がなければただの「英語が話せる日本人」で終わるだけです。自分はこういった人間になりたいのか、まだ答えは見つかりませんが、この素晴らしい留学経験を活かしていきたいと思います。



マードック大学（オーストラリア）
文学部英語英米文学科 3年
【語学プラス交換留学】留学期間：2019年10月～2020年6月



私は留学中の今、マードック大学やパースにとっても魅力を感じるのでぜひおすすめしたいです。マードック大学はとても留学生に優しいと思います。前半の語学留学では少人数で授業をしたり、何かあれば気軽に聞ける環境でクラスメートも先生方も親切です。後半の交換留学では、交換留学生に向けたウェルカムパーティーやイベントが何度もあったり、日本人の先生がコーディネーターとしてサポートしてくださいます。語学プラス交換留学なので前半はホームステイ、後半は寮なのですが、ホームステイは家によって全然違います。それぞれの『家庭』を外から見ることができました。

ホームステイをしている間は家事をしなくて済むので、その分勉強できる時間があると思います。また語学学校でオーストラリア人と友達になる機会は少ないかもしれませんが、ホームステイでは英語で話せる機会があるので練習できます。個人的には寮で自分で料理や洗濯をすることが意外と楽しいと感じています。日本とは違うスーパーへ行き、見たことのない大きさの野菜や果物を買うことも新鮮です。

語学学校の授業は、大学で勉強するための準備ですが、やはり日本と違い特に後半のクラスはみんな積極的に発言するため、追って行かれそうになることがありました。自分から発言しないと評価は下がるし、参加している感じもしない時もあり、とにかくなんでもいいから発言することを心がけました。人数も少ないので話そうと努力すると先生や周りの人たちも気にかけてくれました。交換留学の授業は、宿題で読む量が多い上に理解も難しいものがあり、授業を受けてもわからないことがよくあります。先生や生徒の話すスピードが速すぎて聞き取れません。私は日本に留学する、していた学生と友達になってわからないことを教えてもらったりしています。そして予習復習は本当に大切だと感じます。

オーストラリアと日本では違うところが多くあります。日本で当たり前、常識として小さい頃から何も考えずに過ごしてきた部分が、ほかの国では全く違うということをとっても感じました。様々な人種の人たちが数多く暮らしていること、店の閉店時間、交通機関など、普通こうなのに！と思った普通は日本でのことで、オーストラリアでの普通はまた別にありました。それは旅行で過ごす数日では気付けないこともあり、今まで自分は日本の中の世界しか知らなかったんだなと思いました。日本と違う人や物事により、考え方が変わったり発見したりして成長できたと思います。

最後に、長い間留学するというのは不安もありましたが、新しい発見や楽しいことがたくさんあったり、ほかの国の友達がたくさん出来たりしてとても充実しているので、してよかったと心から感じています。

